

授業科目名	子どもの英語活動Ⅰ	教員名	村端 佳子	免許・資格との関係	小学校教諭	必修
					幼稚園教諭	必修
授業形態	演習	担当形態	単独		保育士	
					こども音楽療育士	
科目番号	KY0207	配当年次	2年前期	卒業要件	小幼コース	必修
単位数	1単位				幼保コース	必修
科目	教科又は教職に関する科目（幼稚園、小学校）					
各科目に含める必要事項						
科目						
系列						
一般目標	<p>(1)小学校での外国語教育（英語教育）についてその目的や基本的な理念を理解する。</p> <p>(2)子どもが母国語や外国語を獲得するということの理論的な背景を踏まえて、模擬授業を行うことにより、実際にどのように授業を組み立てて行くかを学ぶ。</p> <p>(3)教師に求められる英語のコミュニケーションスキルを養い、授業で使えるようにする。</p>					
到達目標	<p>小学校で英語を学ぶ・教えるということはどういうことか、その意義や目標を理解して、英語活動・英語科の授業を組み立てて、主体的に授業が行えるようになる。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	<p>本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「5.教育実践力を身につけている。」「6.教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」「7.基礎的な英会話力を身につけている。」を育成する科目として配置されている。</p>					
授業の概要	<p>小学校3・4年生の外国語活動、5・6年生の英語科の授業において自信をもって指導することができるように、テキストを読み進めながら指導に必要な理論と指導の実際を理解する。また、英語によるコミュニケーション能力の育成と英語活動における指導力の向上を目指す。そのために優れた実践例を紹介すると共に、グループ活動や受講者の実際の発表を通して、実践的指導力を身につけさせる。授業はグループ協議や模擬授業を取り入れ、学生参加型のアクティブ・ラーニングとする。</p>					
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション（授業の進め方、使用するテキスト、予習の仕方、復習の仕方、課題の提出、評価について）、小学校外国語活動・英語科の基本理念</p> <p>第2回：外国語教育の目的と目標（外国語教育の教科化の経緯と目的、学習指導要領、中・高との関連からみた小学校の役割、諸外国の小学校英語教育の例）</p> <p>第3回：関連分野からみる外国語教育の意義と方向性(1)（母語習得と第2言語習得、臨界期仮説：外国語の学習は早ければ良いのか）</p> <p>第4回：関連分野からみる外国語教育の意義と方向性(2)（英語学習の様々な動機、コミュニケーション能力とは）</p> <p>第5回：指導者の役割、資質と研修（担任が英語の授業をすることについて、ALTと日本人の先生それぞれの役割、よりよい指導者を目指すための自己研鑽）</p> <p>第6回：教材の構成と内容（実際の教材を見ながら授業を考える、児童のレベルにあわせた教室英語、使う場面を与えること）</p> <p>第7回：年間指導計画の立案と考え方（1年間の授業の目標、1つの単元にどれくらいの時間をあてるのか、児童は1年後にどのようなことができるようになっているか）</p> <p>第8回：言語材料と4技能の指導（いろいろな指導方法：まず十分に聞かせる、発音・リズム・イントネーションに慣れる、音声に慣れ親しんでから文字の導入）</p> <p>第9回：教材研究（教材・教具の準備や活用方法：歌やチャンツの活用、ゲームをする意味を考える、読み聞かせを取り入れる）</p> <p>第10回：評価のあり方・進め方（さまざまな評価方法：評価の観点、正しい答えを書くだけが学習ではない、目標に沿った評価）</p> <p>第11回：模擬授業体験と実践① あいさつ、自己紹介（ペアでそれぞれが「学級担任」と「ALT」</p>					

	<p>になり、ティームティーチングを行う)</p> <p>第12回：模擬授業体験と実践② 数、身の回りのもの（ペアでそれぞれが「学級担任」と「ALT」になり、ティームティーチングを行う)</p> <p>第13回：模擬授業体験と実践③ 色、形（ペアでそれぞれが「学級担任」と「ALT」になり、ティームティーチングを行う)</p> <p>第14回：模擬授業体験と実践④ 動物、動作（ペアでそれぞれが「学級担任」と「ALT」になり、ティームティーチングを行う)</p> <p>第15回：まとめ（模擬授業体験の反省、気づき、今後の課題）</p> <p>期末試験</p> <p>（授業の進み具合で変更することもある）</p>
学生に対する評価	<p>以下のような観点から総合的に評価する。ただし、すべての観点で60%以上を獲得していること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の準備（予習・課題） 20%</li> <li>・授業中の活動（グループ活動・課題発表） 20%</li> <li>・授業内容の理解（復習テスト・課題） 30%</li> <li>・期末テスト 30%</li> </ul> <p>なお、課題・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コメントを記載して返却する。</li> <li>・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。</li> <li>・答案例を配布する。</li> </ul>
授業外学習について	<p>（事前・事後学習として週2時間以上行うこと。）</p> <p>事前学習（毎回）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①指示されたテキストの該当部分をしっかりと読んで自分なりに理解を深め、授業に臨むこと。</li> <li>②疑問点は書き出して授業中に質問すること。</li> <li>③課題が出された場合は期日までに指定の方法で提出すること。</li> </ol> <p>事後学習（毎回）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①授業のあとはノートや配布物を復習し次回の復習テストに備えること。</li> <li>②授業に役立つような教室英語の表現や、活動のアイデアなどを記録し、整理すること。</li> <li>③配布資料、提出物はすべてかならず綴じて保管しておくこと。</li> </ol> <p>その他</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①毎週土日に必ず振り返りを行うこと。</li> </ol>
テキスト	樋口忠彦・加賀田哲也・泉恵美子・衣笠知子 編著『新編 小学校英語教育法入門』 研究社
参考書・参考資料等	アレン玉井光江（2010）『小学校英語の教育法』 大修館書店 参考資料等、適宜授業中に指示または配布。
担当者からのメッセージ	クラス分けの基準は、英語の習熟度による。
オフィスアワー	毎週月・水曜日 13:00～14:30